

2023 年度事業報告

公益財団法人鈴木万平糖尿病財団は、「糖尿病分野に関する研究者の国際的研究交流を助成し、あわせて我が国における同分野の研究者の育成を図ることにより、糖尿病学研究の一層の推進を図り、もって学術の向上発展に寄与する」ことを目的として、定款第 4 条に定める事業を実施している。

2023 年度（2023 年 4 月 1 日～2024 年 3 月 31 日）は、基本財産及び特定資産等の運用益並びに特定資産の取り崩しにより次に掲げる事業を実施した。

1. 定款第 4 条に定める公益目的事業

助成事業（公 1）	(1) 糖尿病の研究に従事する研究者の海外留学に対する助成 (2) 糖尿病の研究に従事する外国人研究者の招聘に対する助成 (3) 糖尿病に関する会議・シンポジウムに対する助成 (4) 糖尿病に関する調査研究に対する助成
褒賞事業（公 2）	糖尿病の予防・治療等における国内の優れた業績に対する褒賞
褒賞事業（公 3）	糖尿病に関する国内外の優秀な研究実績に対する褒賞

2. 2023 年度公益目的事業

助成事業及び国内褒賞事業については、2022 年度第 2 回理事会（2022 年 12 月 16 日）及び 2023 年度第 2 回理事会（2023 年 12 月 13 日）において承認された内容に基づき実施した。

2023 年度の海外留学助成決定者は 6 名であり、全員無事に年度内に留学が開始された。

本年度 3 回目となる若手研究者調査研究助成は、財団設立 30 周年を機とした拡充により、従来の募集数 10 件程度より 15 件程度に増やし、さらに医療施設へ直接募集ポスターを配布(郵送)する等の認知度向上施策を実施した結果、37 件の応募があり、最終的に 15 件を採択した。

会議・シンポジウムに関しては 4 件採択されたが、Web ハイブリッド開催は 1 件もなく、全て現地開催（リアル）にて行われた。

2023 年度（第 16 回）鈴木万平糖尿病国内賞の表彰式並びに記念パーティーは、新型コロナウイルス感染症が感染法上 5 類に移行したことに伴い、2023 年 10 月 5 日にパレスホテル東京にて現地開催した。

2023 年度（第 16 回）鈴木万平糖尿病国際賞については、2023 年 7 月 24 日開催の国際褒賞審査委員会で受賞候補者 1 名が選出され、2023 年度第 2 回理事会（2023 年 12 月 13 日）において承認された。

本賞の表彰式・受賞者記念講演会・記念パーティーは、財団設立 30 周年記念講演会（ノーベル賞受賞者 大隅良典先生）と共に 2024 年 3 月 6 日に経団連会館にて現地開催した。

2023 年度公益目的事業の総括

公益目的事業	金 額	内 訳
助成事業		
海外留学助成 1.	45,000,000 円	2023 年度新規分 (@650 万円×6 名) 特別補填分 (@100 万円×6 名)
同 上 2.	45,000,000 円	2022 年度継続分 (@650 万円×6 名) 特別補填分 (@100 万円×6 名)
外国人研究者招聘助成	0 円	@100 万円×0 件
会議・シンポジウムに対する助成	4,000,000 円	@100 万円×4 件
調査研究に対する助成 1.	7,500,000 円	2023 年度新規分 (@250 万円×3 件)
	2,000,000 円	同 上 (@200 万円×1 件)
同 上 2.	10,000,000 円	2022 年度継続分 (@250 万円×4 件)
	2,000,000 円	同 上 (@200 万円×1 件)
同 上 3.	5,000,000 円	2021 年度継続分 (@250 万円×2 件)
若手研究者調査研究助成	30,000,000 円	2023 年度新規分 (@200 万円×15 件)
事業推進費・事業運営費	5,187,910 円	募集関連・事業運営費用
選考委員会・面接選考	2,969,481 円	開催関連費用
合 計	158,657,391 円	
褒賞事業（国内褒賞）		2 件（個人 1 名、チーム 1 件）
第 16 回鈴木万平糖尿病国内賞	6,224,620 円	正賞楯、副賞、記念品
第 16 回鈴木万平糖尿病国内賞表彰式	4,107,686 円	表彰式関連費用
事業推進費・事業運営費	3,763,646 円	募集関連・事業運営費用
第 17 回糖尿病国内賞審査委員会	1,080,689 円	開催関連費用
合 計	15,176,641 円	
褒賞事業（国際褒賞）		1 名
第 16 回鈴木万平糖尿病国際賞	30,721,985 円	正賞楯・副賞・記念品
第 16 回鈴木万平糖尿病国際賞表彰式	15,224,099 円	表彰式関連費用
事業推進費・事業運営費・業務委託費	7,979,973 円	募集関連・事業運営・業務委託費用
第 16 回糖尿病国際賞審査委員会	1,818,215 円	開催関連費用
合 計	55,744,272 円	
総 合 計	229,578,304 円	

各公益目的事業の詳細は、附属明細書のとおりである。

附属明細書

1) 助成事業

海外留学助成 - 1 (2023年度新規分 6名)

氏名・所属	研究課題・研究項目・研究機関・研究指導者・留学期間
<p style="text-align: center;">Shin Jihoon</p> <p style="text-align: center;">大阪大学 医学研究科</p> <p style="text-align: center;">糖尿病病態医療学 寄附講座</p>	<p>研究課題： 感染症による脂肪細胞機能異常と新規糖尿病発症機序の解明</p> <p>研究項目： ① 感染症における脂肪細胞の感染/機能破綻経路と全身代謝・病態への影響の検討 ② 感染症における褐色脂肪細胞及びベージュ脂肪細胞の防御・予防・治療的な作用可能性の検討</p> <p>研究機関： Beth Israel Deaconess Medical Center, Harvard Medical School</p> <p>研究指導者： Shingo Kajimura</p> <p>留学期間： 自 2023年7月 至 2025年6月 (2年間)</p>
<p style="text-align: center;">藤本 真徳</p> <p style="text-align: center;">千葉大学 医学部附属病院</p> <p style="text-align: center;">糖尿病代謝 内分泌内科 臨床試験部</p>	<p>研究課題： G6pc-high 肝細胞と Slc25a44 の代謝における役割を空間的遺伝子解析から明らかにする</p> <p>研究項目： 申請者は一細胞解析を行い、糖新生酵素 G6pc を高発現する肝細胞が、糖新生基質の輸送蛋白である Slc25a44 を高発現することを見出した。Kajimura 教授が開発した独自の Slc25a44 解析系、空間的遺伝子発現解析を用いて、Slc25a44 の機能を局在と共に解明し、新たな糖尿病治療標的を見出す。</p> <p>研究機関： Beth Israel Deaconess Medical Center, Harvard Medical School</p> <p>研究指導者： Shingo Kajimura</p> <p>留学期間： 自 2023年7月 至 2026年6月 (3年間)</p>
<p style="text-align: center;">永井 洋介</p> <p style="text-align: center;">東京慈恵会医科 大学内科学講座</p> <p style="text-align: center;">糖尿病・代謝・ 内分泌内科</p>	<p>研究課題： KLF15 による糸球体エネルギー代謝制御機構の解明</p> <p>研究項目： 糖尿病腎症の成因として腎臓における脂肪酸代謝異常が注目されている。申請者は糸球体においても脂肪酸利用障害が腎症進展に深く寄与することを報告した。本研究では、全身に広く発現し代謝制御に深く関わる KLF15 について、いまだ明らかではない糸球体エネルギー代謝制御機構への関与を明らかにすることを目的とする。</p> <p>研究機関： Brown University</p> <p>研究指導者： Mukesh K. Jain</p> <p>留学期間： 自 2023年4月 至 2025年3月 (2年間)</p>

氏名・所属	研究課題・研究項目・研究機関・研究指導者・留学期間
<p>すぎもと たいまき 杉本 大貴</p> <p>国立長寿医療 研究センター</p> <p>予防科学研究部</p>	<p>研究課題： 高齢者糖尿病の認知症発症リスクスコアの開発と脳病理の解明</p> <p>研究項目： 糖尿病に合併する認知症は、加齢や家族歴などの古典的リスクと高血糖や重症低血糖の既往など糖尿病に起因するリスクが集積することで脳病理が促進され認知症へ進展するとされている。本研究は、糖尿病の認知症発症を予測するリスクスコアを作成するとともに、剖検脳を用いてリスク集積により進展する脳病理を明らかにする。</p> <p>研究機関： University of Washington</p> <p>研究指導者： Paul K. Crane</p> <p>留学期間： 自 2023年10月 至 2025年9月（2年間）</p>
<p>おおもり かずの 大森 一乃</p> <p>北海道大学 医学研究院</p> <p>免疫・代謝 内科学教室</p>	<p>研究課題： 糖代謝制御による糖尿病病態下の膵β細胞量保護の研究</p> <p>研究項目： グルコキナーゼをはじめとする解糖系の酵素や膵β細胞の環境の調節によって糖尿病状態における代謝ストレスを軽減し、進行的な膵β細胞の障害、機能、膵β細胞量の低下を予防しうるかについて動物検体、及びヒト検体を用いて検討する。</p> <p>研究機関： MAYO Clinic</p> <p>研究指導者： Aleksey V. Matveyenko, Ph.D.</p> <p>留学期間： 自 2023年4月 至 2025年3月（2年間）</p>
<p>やの せいいち 矢野 誠一</p> <p>九州大学 医学研究院</p> <p>病態制御内科学</p>	<p>研究課題： マクロファージの LXR を標的とした NASH、インスリン抵抗性および心血管疾患の予防・治療戦略の開発</p> <p>研究項目： 非アルコール性脂肪性肝炎(NASH)と心血管疾患は糖尿病の主要な合併症である。近年 NASH と動脈硬化の共通病態として、肝臓と動脈壁のマクロファージにおける肝 X 受容体(LXR)の機能低下が示唆されている。留学先が最近見出した新規 LXR リガンドの作用機序や有用性、インスリン抵抗性への影響を検討する。</p> <p>研究機関： University of California San Diego</p> <p>研究指導者： Christopher K. Glass</p> <p>留学期間： 自 2023年4月 至 2026年3月（3年間）</p>

海外留学助成 - 2 (2022 年度継続分 6 名)

氏名・所属	研究課題・研究項目・研究機関・研究指導者・留学期間
<p>岩崎 可南子 いわざき かなこ</p> <p>京都大学 医学研究科</p> <p>糖尿病・内分泌・ 栄養内科学</p>	<p>研究課題： 膵β細胞の老化制御因子の探索と糖尿病治療への応用</p> <p>研究項目： 膵β細胞の老化が 2 型糖尿病におけるインスリン分泌低下に重要であることが、受入先研究室により近年初めて明らかになった。一方で膵β細胞老化の分子基盤は未解明であり、その解明は膵β細胞老化抑制という全く新しい糖尿病治療標的の同定につながると期待される。このような背景から候補者は、細胞レベルでの膵β細胞老化シグナル経路及び老化抑制・促進因子の同定、及びそれらの病態的重要性の個体レベルでの検討を行うべく、本研究を計画した。</p> <p>研究機関： Joslin Diabetes Center, Harvard Medical School</p> <p>研究指導者： Cristina Aguayo-Mazzucato</p> <p>留学期間： 自 2022 年 4 月 至 2024 年 3 月 (2 年間)</p>
<p>氷室 美和 ひむろ みわ</p> <p>順天堂大学 医学研究科</p> <p>代謝内分泌内科学</p>	<p>研究課題： 膵α細胞・β細胞制御因子の解明</p> <p>研究項目： インスリン分泌、グルカゴン分泌、CRISPR-Cas9</p> <p>研究機関： University of California , San Francisco</p> <p>研究指導者： Gregory M. Ku</p> <p>留学期間： 自 2022 年 8 月 至 2025 年 3 月 (2.8 年間)</p>
<p>Allah Nawaz アラー ナワズ</p> <p>富山大学 医学薬学研究部 分子医科薬理学</p>	<p>研究課題： Elucidation of insulin signaling defects in muscle of type2 diabetes (T2D) using T2D patients' iPS-derived myoblasts.</p> <p>研究項目： 1. To define the molecular signature of insulin resistance. I will perform a global phosphoproteomic analysis of Type 2 Diabetes (T2D)induced pluripotent stem (iPS)cells-derived myoblast(iMyos) 2. To determine if iPS cells-derived from T2D patients exhibit unique different or exaggerated responses to external signaling that produce insulin resistance, such as exposure to cytokines , TNFα, and high levels of free fatty acids(FFA) 3. To assess the activity of the different novel PKCs implicated in insulin resistance in T2D iPS-derived iMyos and also determine their role in the altered phosphorylation through either knockdown and/or inhibitor studies.</p> <p>研究機関： Joslin Diabetes Center, Harvard Medical School</p> <p>研究指導者： C. Ronald Kahn</p> <p>留学期間： 自 2022 年 7 月 至 2024 年 7 月 (2.1 年間)</p>

氏名・所属	研究課題・研究項目・研究機関・研究指導者・留学期間
<p>おそのい しろう 遅野井 祥</p> <p>弘前大学 医学研究科</p> <p>内分泌代謝 内科学講座</p>	<p>研究課題： 機能的腹側膵オルガノイドの創出に基づく発生生物学研究と移植への展開</p> <p>研究項目： ヒト膵発生を再現した手法により内分泌・外分泌・膵管を含むオルガノイドを作成する。発生、分化、糖代謝における役割が十分に解明されていない腹側膵に着目し、解析を行う。マウスへの膵オルガノイドの移植による糖尿病治療の可能性を検討する。</p> <p>研究機関： Cincinnati Children's Hospital</p> <p>研究指導者： Takanori Takebe</p> <p>留学期間： 自 2022年9月 至 2025年8月（3年間）</p>
<p>いざわ しゅんたろう 伊澤 俊太郎</p> <p>北海道大学 獣医学研究院</p> <p>生化学教室</p>	<p>研究課題： 糖代謝異常と睡眠異常を関連付ける視床下部神経機能の解明</p> <p>研究項目： 糖代謝と睡眠調節の両方を調節すると想定される視床下部神経をカルシウムイメージングと遺伝子改変マウスにより同定・標識し、オプトジェネティクス（光遺伝学）を用いた神経活動操作によって肥満と睡眠異常の負のサイクルの改善機能を明らかにする。</p> <p>研究機関： Max Planck Institute for Metabolism Research</p> <p>研究指導者： Jens Bruning</p> <p>留学期間： 自 2022年4月 至 2024年3月（2年間）</p>
<p>かとう だいすけ 加藤 大祐</p> <p>三重大学医学部 附属病院</p> <p>病理部</p>	<p>研究課題： 加齢に伴うベージュ脂肪細胞の活性化抑制機構の解明</p> <p>研究項目： 高齢者の肥満・糖尿病を引き起こすベージュ脂肪細胞の機能低下に関与する原因遺伝子の同定および機能解析</p> <p>研究機関： Beth Israel Deaconess Medical Center, Harvard Medical School</p> <p>研究指導者： Shingo Kajimura</p> <p>留学期間： 自 2022年4月 至 2024年3月（2年間）</p>

外国人研究者招聘助成（2023年度 0件）

なし

会議・シンポジウム助成（2023年度 4件）

会合名・開催日・会場	主催責任者	参加人数/主催機関
<p>第73回日本体質医学会総会 2023年9月9日～9月10日</p> <p>順天堂大学 小川講堂・有山記念館講堂 (東京都)</p>	<p>順天堂大学 医学研究科 代謝内分泌内科学 教授 綿田 裕孝</p>	<p>90人 第73回 日本体質医学会総会</p>
<p>第22回日本先進糖尿病治療・1型糖尿病研究会 2023年11月4日～11月5日</p> <p>昭和大学上条記念館 (品川区)</p>	<p>昭和大学 内科学講座 糖尿病代謝内分泌内科部門 准教授 福井 智康</p>	<p>220名 日本先進糖尿病治療・1型糖尿病研究会</p>
<p>第34回日本糖尿病性腎症研究会 2023年12月2日～12月3日</p> <p>都市センターホテル (千代田区)</p>	<p>日本大学 内科学系腎臓高血圧 内分泌内科学分野 主任教授 阿部 雅紀</p>	<p>404名 第34回日本糖尿病性腎症研究会</p>
<p>第37回日本糖尿病・肥満動物学会年次学術集会 2024年3月15日～3月16日</p> <p>弘前大学50周年記念館 (弘前市)</p>	<p>横浜市立大学 医学研究科 分子内分泌・糖尿病内科学教室 教授 寺内 康夫</p>	<p>139名 日本糖尿病・肥満動物学会</p>

調査研究助成－1（2023年度新規分 4件）

研究責任者	研究課題・研究期間・助成期間・助成金額
<p>新潟大学 医歯学 総合研究科 生活習慣病予防・ 健診医学講座 こだま きとる 児玉 暁</p>	<p>研究課題： メタ解析に基づく、糖尿病合併妊婦の集中血糖管理による血糖改善効果と、母体・胎児予後改善効果との関連性の系統的調査</p> <p>研究期間： 2023年1月～2024年12月（2年間）</p> <p>助成期間： 2023年4月～2025年3月（2年間）</p> <p>助成期間： <u>2023年度 200万円</u>、2024年度 200万円</p>
<p>大阪大学 医学系研究科 糖尿病病態 医療学寄附講座 たかはら みつよし 高原 充佳</p>	<p>研究課題： 糖代謝異常合併妊娠における持続グルコースモニタリングを用いた血糖管理指標の検討</p> <p>研究期間： 2023年4月～2026年3月（3年間）</p> <p>助成期間： 2023年4月～2026年3月（3年間）</p> <p>助成金額： <u>2023年度 250万円</u>、2024年度 250万円、2025年度 250万円</p>
<p>千葉大学 内分泌代謝・ 血液・老年内科学 よこて こうたろう 横手 幸太郎</p>	<p>研究課題： 肥満症に対する減量介入が2型糖尿病を含む健康障害の長期的な改善に及ぼす効果を検証するレジストリ研究（SLIM-TARGET フォローアップ）</p> <p>研究期間： 2018年4月～2026年3月（8年間）</p> <p>助成期間： 2023年4月～2026年3月（3年間）</p> <p>助成金額： <u>2023年度 250万円</u>、2024年度 250万円、2025年度 250万円</p>
<p>千葉大学 医学研究院 人工知能(AI)医学 かわかみ えいりょう 川上 英良</p>	<p>研究課題： 人工知能技術を用いた糖尿病性腎臓病の発症・増悪機構の解明と最適な個別介入方法の提案</p> <p>研究期間： 2022年10月～2026年3月（3年6ヵ月間）</p> <p>助成期間： 2023年4月～2026年3月（3年間）</p> <p>助成金額： <u>2023年度 250万円</u>、2024年度 250万円、2025年度 250万円</p>

調査研究助成 - 2 (2022 年度継続分 5 件)

研究責任者	研究課題・研究期間・助成期間・助成金額
自治医科大学 小児科 教授 嶋田 明 <small>しまだ あきら</small>	研究課題： 小児がん経験者がメタボリック症候群を早期に発症する要因の解明 研究期間： 自 2022 年 1 月 至 2024 年 12 月 (3 年間) 助成期間： 自 2022 年 4 月 至 2025 年 3 月 (3 年間) 助成金額： 2022 年度 200 万円 <u>2023 年度 200 万円</u> 2024 年度 200 万円
滋賀医大内科学 講座 教授 前川 聡 <small>まえがわ ひろし</small> 横山内科 理事長 横山 宏樹 <small>よこやま ひろき</small> 一般社団法人糖尿病 データマネジメン ト研究会 (JDDM)	全国多施設大規模共同研究による日本人糖尿病の生命・心血管疾患・ 腎機能の予後と時代効果 ー第一次コホート研究と第二次コホート研究の比較を踏まえてー 研究期間： 自 2022 年 1 月 至 2025 年 12 月 (4 年間) 助成期間： 自 2022 年 4 月 至 2025 年 3 月 (3 年間) 助成金額： 2022 年度 250 万円 <u>2023 年度 250 万円</u> 2024 年度 250 万円
大阪大学医学系 研究科 内分泌・ 代謝内科学 講師 片上 直人 <small>かたかみ なおと</small>	研究課題： メタボロミクスによる糖尿病血管障害のバイオマーカー探索・リス ク予測モデルの作成と病態解明 研究期間： 自 2021 年 12 月 至 2026 年 12 月 (5.1 年間) 助成期間： 自 2022 年 4 月 至 2025 年 3 月 (3 年間) 助成金額： 2022 年度 250 万円 <u>2023 年度 250 万円</u> 2024 年度 199 万円
東京大学 医学系研究科 糖尿病・代謝内科 客員研究員 門脇 孝 <small>かたわき たかし</small>	研究課題： 2 型糖尿病に対する厳格な多因子介入が血管合併症と生命予後に及 ぼすより長期的な影響の検討 研究期間： 自 2021 年 7 月 至 2026 年 6 月 (5 年間) 助成期間： 自 2022 年 4 月 至 2025 年 3 月 (3 年間) 助成金額： 2022 年度 250 万円 <u>2023 年度 250 万円</u> 2024 年度 250 万円
熊本大学生命科学 研究部代謝内科学/ 健康長寿代謝制御 研究センター 教授/センター長 荒木 栄一 <small>あらかみ えいいち</small>	研究課題： 常圧低酸素運動介入によるサルコペニア予防や、インスリン抵抗性 改善機序の解明 研究期間： 自 2022 年 4 月 至 2025 年 3 月 (3 年間) 助成期間： 自 2022 年 4 月 至 2025 年 3 月 (3 年間) 助成金額： 2022 年度 250 万円 <u>2023 年度 250 万円</u> 2024 年度 250 万円

調査研究助成 - 3 (2021 年度継続分 2 件)

研究責任者	研究課題・研究期間・助成期間・助成金額
国立成育医療研究センター 分子内分泌研究部 部長 深見 真紀	研究課題： 小児期発症糖尿病患者の遺伝子診断システム確立と診療バイオマーカー開発 研究期間： 自 2021 年 4 月 至 2024 年 3 月 (3 年間) 助成期間： 自 2021 年 4 月 至 2024 年 3 月 (3 年間) 助成金額： 2021 年度 250 万円 2022 年度 250 万円 <u>2023 年度 250 万円</u>
神戸大学 医学研究科 糖尿病・内分泌内科学 教授 小川 渉	研究課題： メトホルミンによる腸管へのグルコース排泄作用の臨床的意義の解明 研究期間： 自 2021 年 1 月 至 2023 年 12 月 (3 年間) 助成期間： 自 2021 年 4 月 至 2024 年 3 月 (3 年間) 助成金額： 2021 年度 250 万円 2022 年度 250 万円 <u>2023 年度 250 万円</u>

若手研究者調査研究助成 (2023 年度新規分 15 件)

《200 万円/件》

研究責任者	研究課題・研究期間・助成期間
大阪大学 生化学・分子生物学講座 遺伝学教室 南 聡	研究課題： オートファジー創薬の実現に向けた、ヒト糖尿病性腎臓病の病態解明 研究期間： 自 2024 年 1 月 至 2026 年 12 月 (3 年間)
慶應義塾大学 眼科学教室 富田 洋平	研究課題： 強度近視と糖尿病網膜症の関係性と新規治療薬の開発 研究期間： 自 2024 年 1 月 至 2025 年 12 月 (2 年間)
滋賀医科大学 医師臨床教育センター 山原 真子	研究課題： 糖尿病性腎臓病のポドサイト障害に対するリソソーム転写因子TFEB 活性化に着目した新規治療標的の開拓 研究期間： 自 2023 年 4 月 至 2025 年 3 月 (2 年間)
京都大学農学研究科 栄養化学分野 小栗 靖生	研究課題： ベージュ幹細胞ニッチの同定と糖尿病における変容メカニズムの解明 研究期間： 自 2024 年 2 月 至 2026 年 1 月 (2 年間)
福岡大学 内分泌・糖尿病内科学 横溝 久	研究課題： 解糖系代謝機構に着目した糖尿病性腎症の残存病態の機序解明 研究期間： 自 2024 年 3 月 至 2027 年 2 月 (3 年間)


研究責任者	研究課題・研究期間・助成期間
群馬大学 生体調節研究所 代謝疾患医科学 まつなが こういち 松永 耕一	研究課題： ケミカルライブラリから同定された新規インスリン分泌促進化合物の作用機序の解明 研究期間： 自 2023年4月 至 2025年3月 (2年間)
川崎医科大学 糖尿病・代謝・内分泌内科学 きむら ともひこ 木村 友彦	研究課題： 膝ラ氏の m6A RNA メチレーションの生理的役割の解明 研究期間： 自 2023年10月 至 2025年9月 (2年間)
北里大学 医学部 内分泌代謝内科学 たぐち ともみ 田口 朋	研究課題： 糖尿病根治を目指した高効率かつ低侵襲な α -to- β reprogramming 誘導法の開発 研究期間： 自 2022年1月 至 2025年3月 (3年3ヶ月間)
関西電力医学研究所 糖尿病研究センター うすい りょうた 臼井 亮太	研究課題： β 細胞障害を反映する新規マーカーの探索 研究期間： 自 2024年4月 至 2027年3月 (3年間)
横浜市立大 分子内分泌・糖尿病内科学 きょうはら まゆ 京原 麻由	研究課題： 膵島腺房細胞連関を介した GLP-1 による膵 β 細胞増殖制御機構の解析 研究期間： 自 2019年4月 至 2025年3月 (6年間)
自治医科大学 腎臓内科学部門 ますだ たかひろ 増田 貴博	研究課題： SGLT2 阻害による集合管拡張に着目した腎保護メカニズムの解明 研究期間： 自 2023年6月 至 2027年3月 (3年10ヶ月間)
山口大学 病態制御内科学講座 たぐち あきひこ 田口 昭彦	研究課題： 出力系時計遺伝子から紐解く糖代謝制御メカニズムの解明 研究期間： 自 2023年6月 至 2025年5月 (2年間)
熊本大学生命科学 研究部病態生化学 きとう じゆふみ 佐藤 叔史	研究課題： 膵 β 細胞低酸素の成因解明および制御法の検討 研究期間： 自 2023年12月 至 2026年3月 (2年4ヶ月間)
東京大学医学部附属 病院糖尿病・代謝内科 とだ ごうたろう 戸田 郷太郎	研究課題： 正常な代謝を維持する免疫細胞における蛋白分解経路の役割 研究期間： 自 2024年4月 至 2025年3月 (1年間)
大阪大学医学系研究科 腎臓内科学 やまもと たけし 山本 毅士	研究課題： 転写因子MondoA と糖・脂質代謝に着目した、肥満関連糖尿病性腎臓病の病態解明 研究期間： 自 2022年10月 至 2024年12月 (2年3ヶ月間)

2) 褒賞事業

2023年度（第16回）鈴木万平糖尿病国内賞

【個人】	
小出 景子 氏（公益財団法人ライフ・エクステンション研究所附属永寿総合病院 糖尿病臨床研究センター センター長補佐）	
推薦者	綿田 裕孝（日本糖尿病学会 常務理事）
受賞理由	CGM や CSII などの先進機器に関する研究として血糖値の見える化やインスリンポンプ治療の適正安全な使用を進め、血糖値データと患者の生活情報等を突合し解析支援する「データマネジメントシステム (DMS) 指導」の考案・実践に精力的に取り組んできた。 各種学会における活動も活発であり、また多くの執筆活動を行って議論の場を広げており、職種や地域を越えて、糖尿病治療の先進機器分野への医療スタッフの理解向上に大きく貢献した。 これらの活動は長きに亘り、一貫性があり、その波及効果も大きく、上記の業績は本賞に値する。
【チーム】	
佐賀県糖尿病コーディネート看護師 (佐賀大学医学部附属病院看護師長、慢性看護専門看護師、日本糖尿病療養指導士認定機構理事 永渕 美樹 氏)	
推薦者	安西 慶三（日本糖尿病協会 常任理事）
受賞理由	糖尿病専門医の少ないエリアとしての佐賀県内において、「糖尿病コーディネート看護師」が活動を広げ、県内における糖尿病患者を地域で連携して治療するため、医療機関に出向いてスタッフ向けの糖尿病教室、インスリン治療導入、連携手帳導入などの診療支援を行っており、佐賀県内の糖尿病医療水準の向上に大きく貢献した。都道府県国保ヘルスアップ支援事業の中で人材の確保・育成事業のモデルとなっている。 これらの活動には一貫性があり、人材や医療資源が必ずしも十分ではない日本全国の地方・僻地における糖尿病療養指導のモデルケースとして波及効果も大きく、これらの業績は本賞に値する。

2023 年度（第 16 回）鈴木万平糖尿病国際賞

<p>受賞者</p> 	<p>Douglas A. Melton, PhD. Distinguished Research Fellow, Vertex Pharmaceuticals.</p> <p>Harvard University, Department of Stem Cell and Regenerative Biology</p>
<p>推薦者</p>	<p>Dr. Mark Atkinson University of Florida Diabetes Institute, Director</p>
<p>受賞理由</p>	<p>The Selection Committee highly recognized his pioneering and groundbreaking contributions over the years to understand the development of the pancreas, defining its lineage and cell fate regulation, which enabled him to direct the differentiation of human stem cells to islet cells that functionally mimic endogenous human islets. Furthermore, the Committee recognized his contribution to clinical trials using stem cell-derived islet-like cells in human islets transplants and the early promising results of this procedure.</p> <p>《日本語訳》 Melton 博士は、膵臓発生の研究分野において、発生の系統及び細胞運命の制御機構を明らかにし、ヒト幹細胞から生体の膵島に近い機能を持つ膵島細胞を分化させることを可能にしました。審査委員会はこれらの功績を、長年に亘る、先駆的で革新的な貢献と高く評価しました。更に審査委員会は、ヒト幹細胞由来膵島様細胞を用いた膵島移植の臨床試験が実施され、早期に有望な結果を得たことに対する Melton 博士の貢献を評価しました。</p>

3. 2024 年度公益目的事業

1) 助成事業（公1）

2023 年度第 1 回理事会（2023 年 6 月 1 日）で募集要領の承認を得て、7 月 17 日から 9 月 19 日まで 4 つの助成事業の募集を行った。なお、調査研究助成に関して今回の 2024 年度募集より、従来のヒト主体の調査研究 A に基礎主体の調査研究 B を加えた 2 分野の研究助成を募集した。

申請資料に基づき 2023 年 11 月 10 日の選考委員会（当日委員会 1 名欠席：総勢 6 名）で、2024 年度助成候補（海外留学助成 6 名、会議・シンポジウム助成 2 件、調査研究助成 A 5 件、調査研究助成 B 3 件）が選出された。

しかし、海外留学助成について 1 名が本委員会終了後、サンスター財団の海外留学助成内定のため辞退があり、候補者は 6 名より 5 名となった。

また、同委員会でも中間報告に基づき、調査研究助成（2023 年度 4 件、2022 年度 5 件）の助成継続が了承された。

一方、外国人研究者招聘助成への応募はなかった。

選考にあたり、利益相反（COI）があると判断された応募/委員は、調査研究助成 A に関して 1 件/1 名、若手研究者調査研究助成で 8 件/7 名（応募間の COI の重複なし）、会議シンポジウム助成で 1 件/1 名、調査研究助成（継続）に関して 1 件/1 名であった。

選考委員会での審議に先立ち、COI のある応募の審査に対して以下(*)のように対応し、規程改正することで合意され、当日の審議・選考が進められた。*：「助成候補の選考を公正に行う」と言う選考委員の責務のもと、これまでと同様、COI 対象の応募の書面評価は行わず、当該応募の審査には加わらない（退席はしない）一方、COI 対象の応募以外の書面評価は実施し、COI 対象となる応募以外の審査にも加わる（下線：今回合意）。2023 年度第 2 回理事会（2023 年 12 月 13 日）において当該規程の改正が正式に承認された。

海外留学助成候補者 5 名については、2023 年 11 月 22 日の面接選考会にて語学力を審査し、5 名全員を適格と判定した。

これら助成候補は、2023 年度第 2 回理事会（2023 年 12 月 13 日）で審議され、選考委員会・面接選考会での選考結果のとおり承認された。

なお、海外留学助成決定者には助成決定証書の授与及び提出書類等の説明のために、2024 年 1 月 11 日にオリエンテーションを実施した。

2) 褒賞事業（公2）：2024 年度（第 17 回）鈴木万平糖尿病国内賞

2023 年度第 1 回理事会（2023 年 6 月 1 日）で募集要領の承認を得て、7 月 10 日から 9 月 11 日まで募集を行った。

推薦資料に基づき 2023 年 10 月 5 日の国内褒賞審査委員会で審査を行なったが、受賞候補なしとなった。

審査結果は、2023 年度第 2 回理事会（2023 年 12 月 13 日）で審議され、審査委員会の審査結果のとおり該当なしで承認された。

3) 褒賞事業（公3）：2024 年度（第 17 回）鈴木万平糖尿病国際賞

2023 年度第 1 回理事会（2023 年 6 月 1 日）、第 2 回理事会（2023 年 12 月 13 日）で募集要領の承認を得た。

附属明細書

1) 助成事業(公1)

海外留学助成(2024年度 5名)

氏名・所属	研究課題・研究項目・研究機関・研究指導者・留学期間
<p style="text-align: center;">みね けいいちろう 三根 敬一郎</p> <p style="text-align: center;">佐賀大学医学部 医学科</p> <p style="text-align: center;">肝臓・糖尿病・ 内分泌内科</p>	<p>研究課題： インスリン様ペプチド産生細菌の腸内共生が次世代の T1D へ及ぼす影響の解明</p> <p>研究項目： 最近、インスリン様ペプチドを産生する細菌が発見された。申請者らは「インスリン様ペプチド産生細菌の垂直伝播が次世代の T1D と関連する」との着想に至った。微生物の糖尿病誘発性に着目し、インスリン様ペプチド産生細菌の腸内共生が次世代へ及ぼす影響を解析することで、世代を超えた T1D 抑制を目指す研究を展開する。</p> <p>研究機関： Boston College</p> <p>研究指導者： Emrah Altindis</p> <p>留学期間： 自 2024 年 4 月 至 2026 年 3 月 (2 年間)</p>
<p style="text-align: center;">あおやま じろう 青山 二郎</p> <p style="text-align: center;">東京医科歯科大学 大学院医歯学総合 研究科</p> <p style="text-align: center;">血内治療学分野</p>	<p>研究課題： 単球マクロファージのタンパクシトルリン化が糖尿病誘導性動脈硬化症を発症する機序の解明</p> <p>研究項目： 糖尿病が誘導する動脈硬化症に対しては糖尿病やその他生活習慣病の治療以外の内科的アプローチがない。本研究では単球・マクロファージのタンパクシトルリン化に注目し、これが動脈硬化症を発症・進展させる機序を解明することで、動脈硬化症の予防・治療における新規治療薬の開発につなげることを目的とする。</p> <p>研究機関： Brigham and Women's Hospital, Harvard Medical School</p> <p>研究指導者： Aikawa Masanori</p> <p>留学期間： 自 2024 年 7 月 至 2026 年 6 月 (2 年間)</p>
<p style="text-align: center;">ひらた ゆう 平田 悠</p> <p style="text-align: center;">神戸大学大学院 医学研究科</p> <p style="text-align: center;">糖尿病・内分泌 内科学</p>	<p>研究課題： ミクログリアに着目した運動による糖尿病改善機構の本態解明</p> <p>研究項目： 糖尿病や肥満では脳内免疫細胞であるミクログリアの機能が低下し、運動はミクログリアの機能を改善する可能性が示唆されているが、そのメカニズムの詳細は明らかでない。本研究では、糖尿病および運動による脳領域特異的なミクログリアの機能変化やエピゲノム制御機構を解析し、運動による糖尿病改善機構の本態を解明する。</p> <p>研究機関： University of California, San Diego</p> <p>研究指導者： Christopher K. Glass</p> <p>留学期間： 自 2024 年 4 月 至 2026 年 3 月 (2 年間)</p>

氏名・所属	研究課題・研究項目・研究機関・研究指導者・留学期間
いわま やすあき 岩間 康哲 大阪大学 医学系研究科 脳神経感覚器外科 学(眼科学)	研究課題： 毛細血管網を有する網膜オルガノイドの作成および糖尿病網膜症 <i>in vitro</i> モデルへの応用 研究項目： 糖尿病網膜症(DR)は本邦における成人中途失明原因の第3位であり、増殖性変化が出現する前の病態解明・治療 介入が重要であるが、ヒト組織由来の適切なモデルは存在しない。本研究では生理的な毛細血管叢を持つ網膜オルガノイドを作製し、DRの病態を <i>in vitro</i> で再現し新規病態機序を探索することを目的とする 研究機関： The Scripps Research Institute 研究指導者： Martin Friedlander 留学期間： 自 2024年10月 至 2027年9月 (3年間)
あらき ひろたか 荒木 裕貴 熊本大学 発生医学研究所 細胞医学分野	研究課題： サルコペニアを促進する分子メカニズムの解明 研究項目： 糖尿病患者に多いサルコペニアの分子メカニズムを解明するため、サルコペニアへの関連を示唆する実験結果が得られた Rrad に注目し研究を行う。マウスモデルで骨格筋での Rrad の過剰発現、欠損による筋力や Ca シグナリングの変化、網羅的、空間的遺伝子発現解析等々を評価する。また、同様に Myc の関与についても解析を行う。 研究機関： Biozentrum, University of Basel 研究指導者： Markus A. Ruegg 留学期間： 自 2024年5月 至 2026年4月 (2年間)

外国人研究者招聘助成 (2024年度 0件)

応募なし

会議・シンポジウム助成 (2024年度 2件)

会合名・開催日・会場	主催責任者	参加人数/主催機関
第38回日本糖尿病・肥満動物学会 年次学術集会 2025年3月28日～3月29日 ニューオータニイン札幌 (札幌市)	横浜市立大学 医学研究科 分子内分泌・糖尿病内科学教室 教授 寺内 康夫	300名 日本糖尿病・肥満動物学会
第35回日本糖尿病性腎症研究会 2024年11月30日～12月1日 都市センターホテル (東京都)	岡山大学病院 新医療研究開発センター 副センター長 四方 賢一	450名 日本糖尿病性腎症研究会

調査研究助成 A (2024 年度 5 件)

研究責任者	研究課題・研究期間・助成期間・助成金額
<p>大阪大学 医学系研究科 糖尿病病態医療学 寄附講座 こざわ じゅんじ 小澤 純二</p>	<p>研究課題：最新の遺伝子解析技術を用いた免疫チェックポイント阻害薬投与に伴う1型糖尿病の発症予測、ならびに膵β細胞傷害の進展阻止を目指した病態解明</p> <p>研究期間：2023年4月～2027年3月（4年間）</p> <p>助成期間：2024年4月～2027年3月（3年間）</p> <p>助成期間：<u>2024年度242万円</u>、2025年度 214万円、2026年度 244万円</p>
<p>筑波大学医学医療系 内分泌代謝・糖尿病 内科 せきや もとひろ 関谷 元博</p>	<p>研究課題：新しいバイオマーカーの創出による糖尿病合併症の効率的な予測法の確立</p> <p>研究期間：2022年4月～2028年12月（6年9ヶ月間）</p> <p>助成期間：2024年4月～2027年3月（3年間）</p> <p>助成金額：<u>2024年度250万円</u>、2025年度250万円、2026年度250万円</p>
<p>北海道大学 医学研究院 免疫・代謝内科学 教室 なかがむら あきのぶ 中村 昭伸</p>	<p>研究課題：糖尿病のデジタルヘルス医療へ向けた包括的代謝疾患マネジメント方針の確立</p> <p>研究期間：2024年4月～2027年3月（3年間）</p> <p>助成期間：2024年4月～2027年3月（3年間）</p> <p>助成金額：<u>2024年度250万円</u>、2025年度250万円、2026年度250万円</p>
<p>千葉大学 内分泌代謝・血液・ 老年内科学 まへざわ よしろう 前澤 喜朗</p>	<p>研究課題：糖尿病腎症とサルコペニアの発症進展を制御する腎筋関連バイオマーカーの探索</p> <p>研究期間：2024年4月～2027年3月（3年間）</p> <p>助成期間：2024年4月～2027年3月（3年間）</p> <p>助成金額：<u>2024年度250万円</u>、2025年度250万円、2026年度250万円</p>
<p>大阪大学 医学系研究科 社会医学講座公衆 衛生学 かわさき りょう 川崎 良</p>	<p>研究課題：糖尿病網膜症のデータ・デジタル・デザイン思考による包括的研究拠点</p> <p>研究期間：2024年4月～2027年3月（3年間）</p> <p>助成期間：2024年4月～2027年3月（3年間）</p> <p>助成金額：<u>2024年度250万円</u>、2025年度250万円、2026年度250万円</p>

調査研究助成 B (2024 年度 3 件)

研究責任者	研究課題・研究期間・助成期間・助成金額
国立循環器病研究センター 研究所 心血管老化制御部 清水 逸平	研究課題： 分泌型線維化促進分子を標的とした疾患横断的治療法開発 研究期間： 2023 年 4 月～2028 年 3 月 (5 年間) 助成期間： 2024 年 4 月～2027 年 3 月 (3 年間) 助成期間： <u>2024 年度 250 万円</u> 、2025 年度 250 万円、2026 年度 250 万円
北里大学医学部 内分泌代謝内科学 宮塚 健	研究課題： 膵β細胞由来血漿ペプチドの同定による新規アッセイ系の構築 － 1 型糖尿病の病態解明および治療法開発に向けて－ 研究期間： 2023 年 1 月～2027 年 12 月 (5 年間) 助成期間： 2024 年 4 月～2027 年 3 月 (3 年間) 助成金額： <u>2024 年度 250 万円</u> 、2025 年度 250 万円、2026 年度 250 万円
東北大学 外科病態学講座 救急医学分野 三瓶 想	研究課題： 糖尿病患者の感染症重症化機序の解明 研究期間： 2019 年 1 月～2027 年 3 月 (8 年 3 ヶ月間) 助成期間： 2024 年 4 月～2027 年 3 月 (3 年間) 助成金額： <u>2024 年度 250 万円</u> 、2025 年度 250 万円、2026 年度 250 万円

2) 褒賞事業 (公2)

2024 年度 (第 17 回) 鈴木万平糖尿病国内賞

【個人 / 団体】

受賞候補者なし